



～「理科大好きプロジェクト」をさらに進めるために～

「子どもたちが理科を好きになるためには、まずは理科を教える教員が理科を大好きになることが必要である」というコンセプトのもと、今年度から「理科大好きプロジェクト」を立ち上げました。

そこで、学校現場の現状やニーズ等を把握し、このプロジェクトがさらに学校や子どもたちにとって、より効果的で実のあるものにするために、アンケート調査を行いました。このアンケート調査は「理科大好きプロジェクト」の指定校（亀岡市立吉川小学校、藤田野小学校）の教職員を対象に、研修会等への参加する前と、後ではどのように変化したかなどの意識変化や、理科の指導方法等に対する意識などについて行いました。

1 結果の概要

☆研修等を行った結果、実施前と実施後の教員の意識

○「嫌い」や「苦手」が減少。「好き」や「得意」増加。

※実技研修として、指導に係る具体的な方策を自らが実際に行ったことで、理科の指導に係る苦手意識が変化し、自分もできるのではないかと意識が芽生えたものと考えられる。

☆指導方法等に対する意識

○理科の学習内容や観察・実験に対する知識・理解、指導技術について、「低い」と感じている教員が約半数近くいる。

※理科では観察・実験等の実技的な要素を含み、安全に対する配慮等、より専門的な知識や技術の習得を求められることから、理科を指導することに対して自信が持てないのではないかと考えられる。

○「やや自信がない」と「自信がない」が50%を越える項目
地層の野外観察＞薬品の濃度の調整＞手回し発電機の使い方

○「やや自信がない」と「自信がない」が50%未満40%以上の項目
ガスバーナーの使い方＞葉のデンプンの検出＞電流計の使い方



2 今後の方向性

☆管内の学力向上に向けた取組になるように、以下の点に留意しながら事業を発展させる。

○『理科大好きプロジェクト推進校』を数校指定し、夏期休業中等に、基本的な実験器具の安全な使い方や関心意欲を高める実験・観察法など、教員が「自信がない」と回答した項目中心に、指導技術向上に向けた**実技研修会を開催**する。

○小・中学校が理科を切り口にした、**授業研究会を開催**する。

○基礎実験に係る**リーフレットを発行**する。

